



Nissan Chemical
CORPORATION

未来のための、はじめてをつくる。

個人投資家の皆様へ 日産化学（株）(証券コード:4021) 会社説明会資料

説明者 日産化学(株)
サステナビリティ・IR部
IRグループリーダー
上出 未来

2024年8月31日



Contents

01	沿革・会社概要	P3
02	当社の特徴	P5
03	主要セグメント概況	P13
04	2024年度1Qサマリー	P30
05	ESGトピックス	P31
06	参考資料	P36

1887

東京人造肥料会社設立

1937

日産化学工業株式会社に改称

1965

石油化学事業へ進出

1988

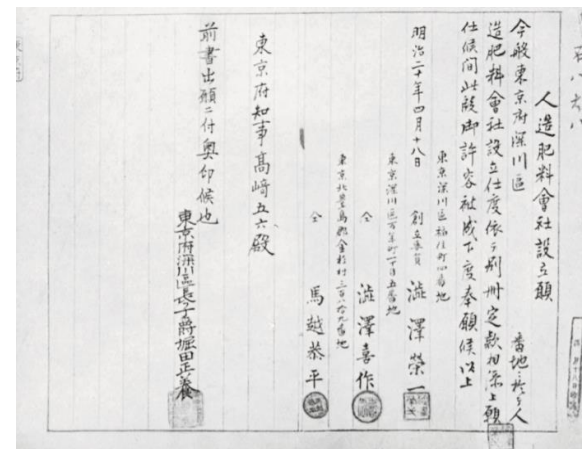
石油化学事業から撤退

1989

事業構造の転換

2018

日産化学株式会社に名称を変更

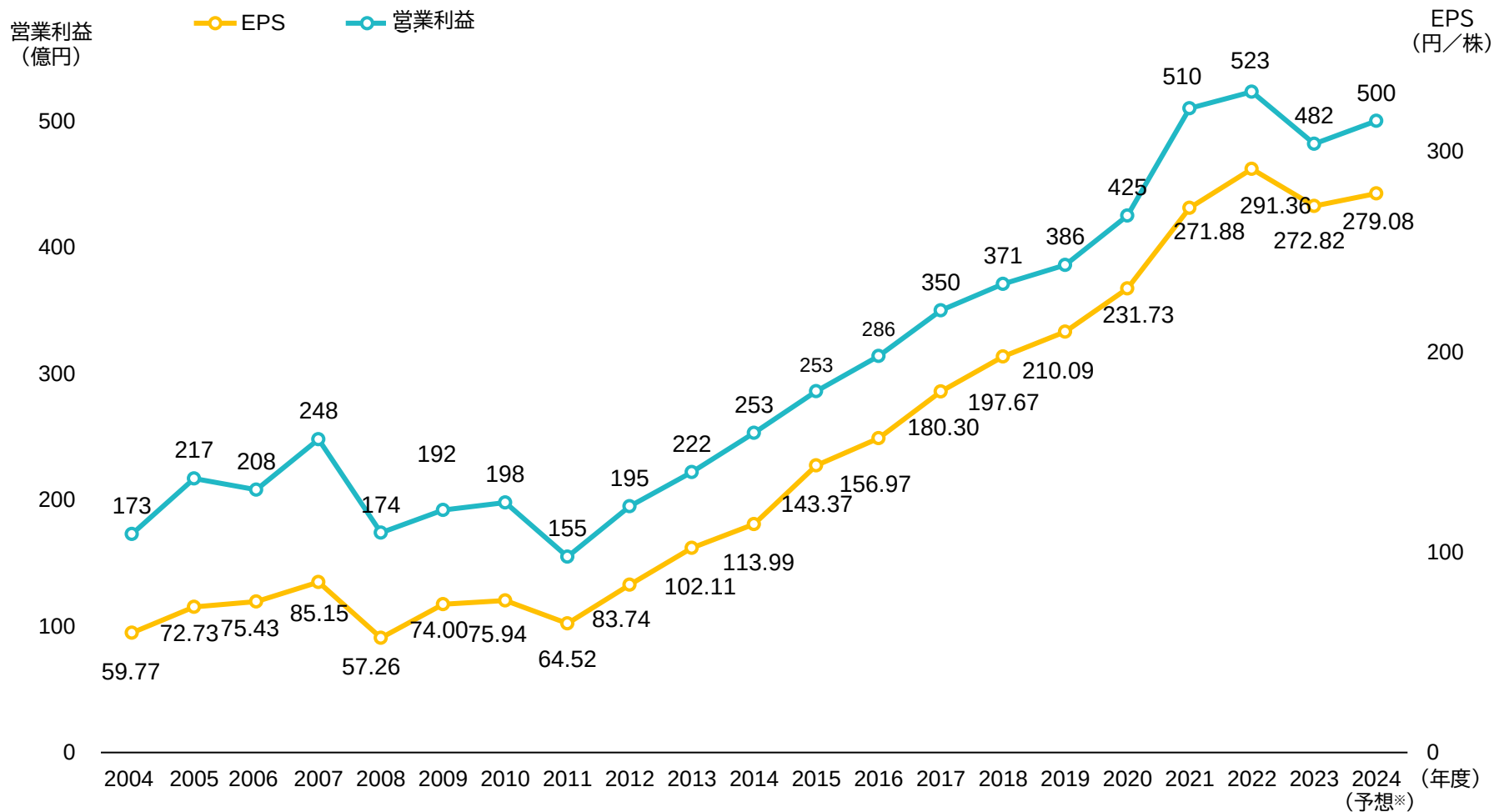


澁澤栄一

高峰譲吉

1. 普通株式/資本金：140百万株/18,942百万円（2024年3月現在） 東証プライム市場上場
2. 従業員数：連結3,137人 単体2,011人（2024年3月現在）
3. 主な事業内容：(1)機能性材料事業（ディスプレイ材料、半導体材料、無機コロイド等）
 (2)農業化学品事業（農薬、動物用医薬品等）
 (3)化学品事業（アンモニア・硫酸系基礎化学品、ファインケミカル等）
 (4)ヘルスケア事業（自社創薬、原薬・中間体製造/プロセス研究/GE原薬供給等）

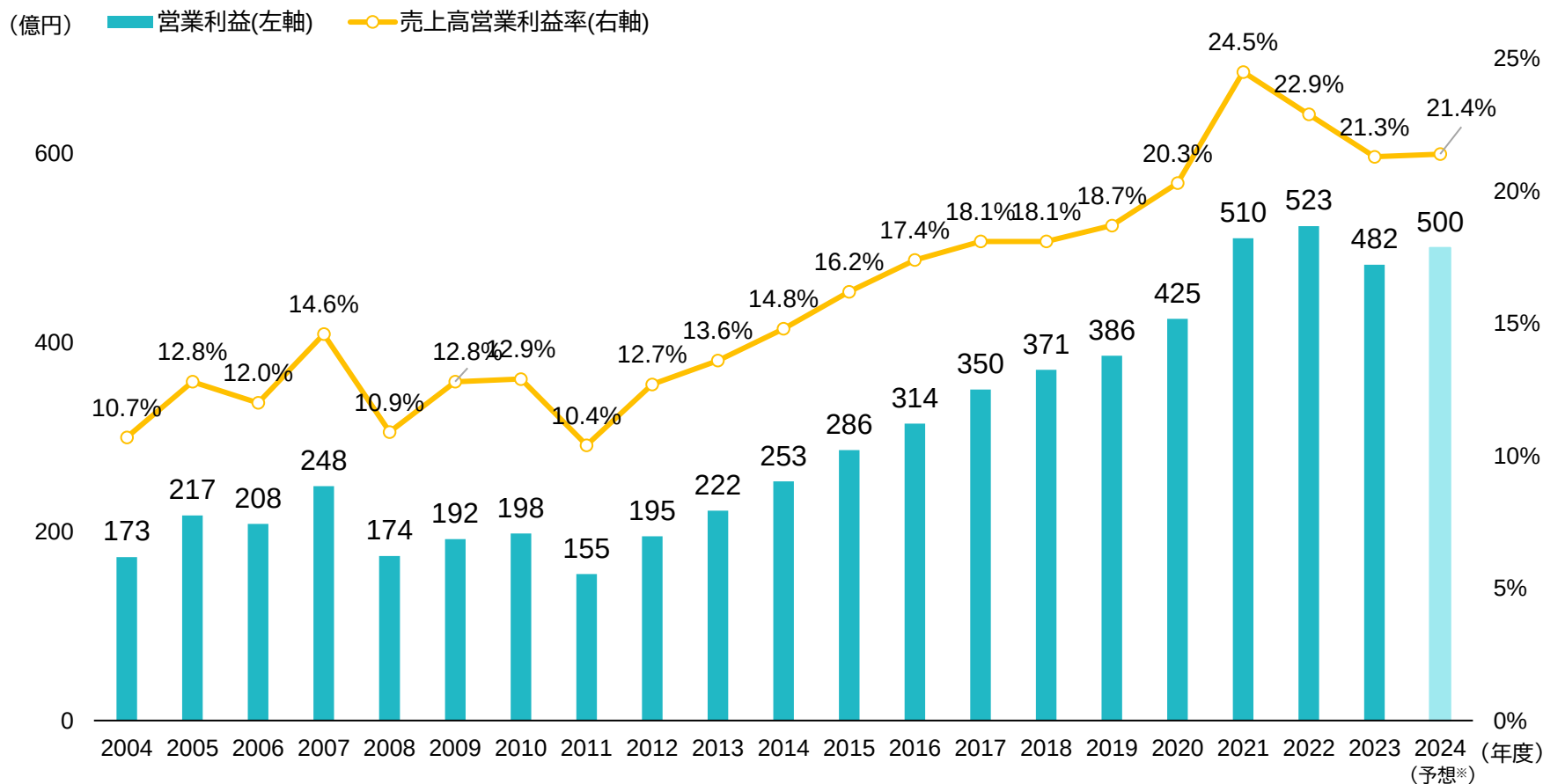
- 2012年度以降、営業利益、EPS(一株当たり当期純利益)は2022年度まで一貫して上昇
- 2023年度は半導体市場の一時的な調整などにより減益となった
- 2024年度は回復基調となり、さらに中長期での成長トレンドは継続する見通し



※ 2024年5月発表

※ EPSは自己株式の取得(5月28日発表、100億円)を反映

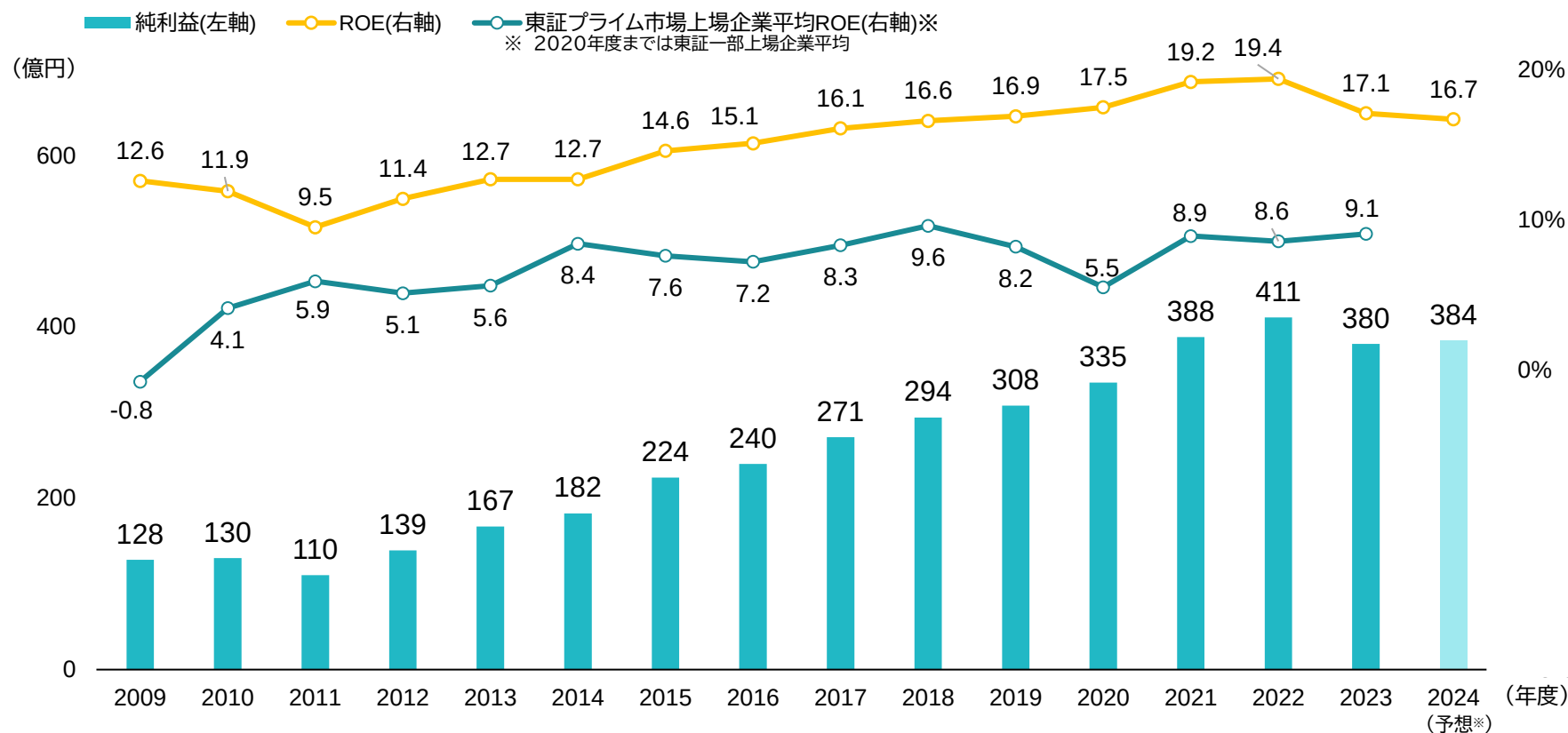
- 景気変動の影響を受けやすい化学業界にあって、長期にわたり安定的かつ高い売上高営業利益率を維持（2003年度以降21年連続10%以上）



※ 2021年度実績:会計方針の変更影響を含む

※ 2024年5月発表

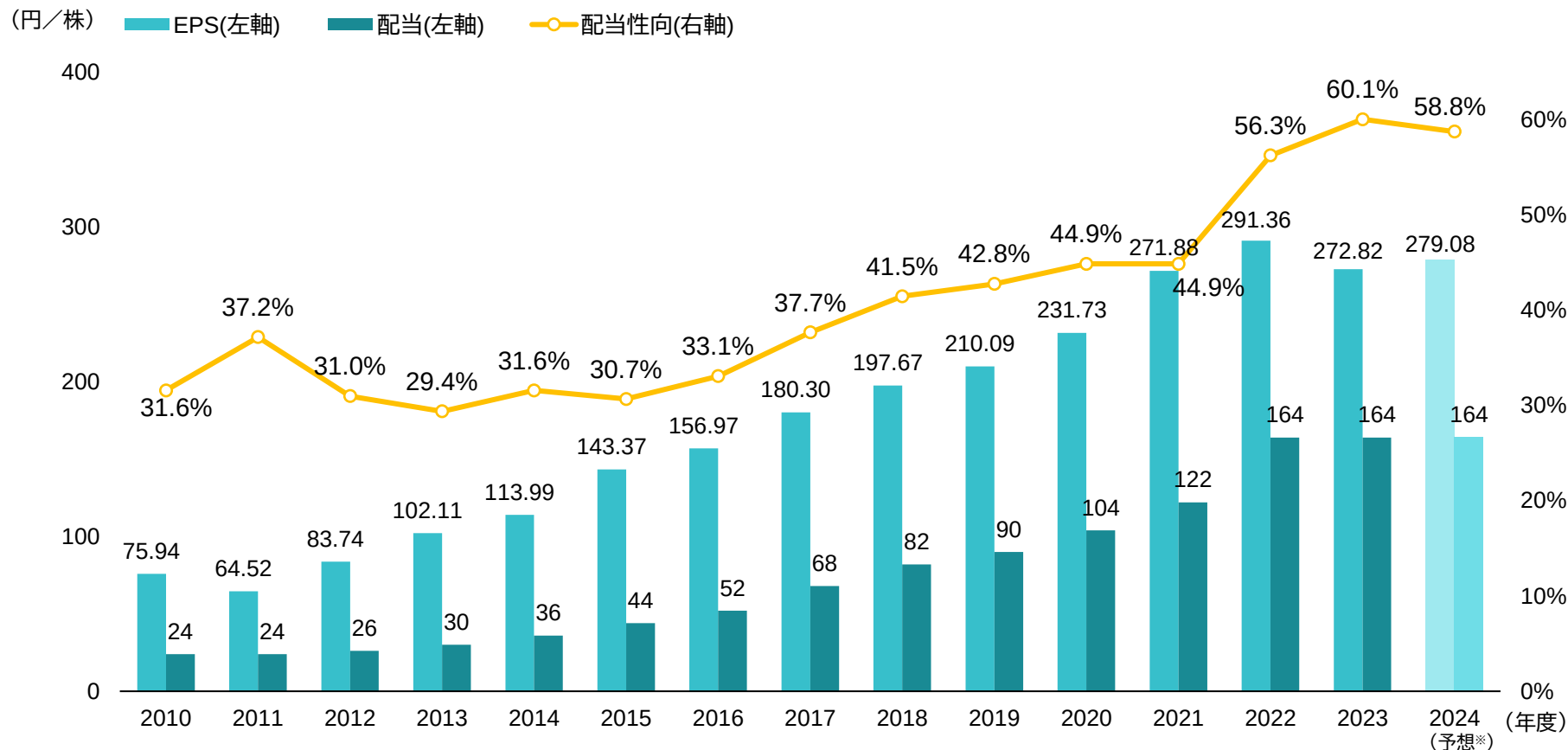
- ROEを従前より最重要の経営指標とし、高水準を維持
- 前中期経営計画(2019-2021年度)では16%以上維持を目標に掲げ、達成
- 新中期経営計画(2022-2027年度)では18%以上維持が目標
- 2023年度実績は17.1%、2024年度予想は16.7%



※ 2024年5月発表

※ ROEは自己株式の取得(5月28日発表、100億円)を反映

- 新中期経営計画(2022-2027年度)では45%から55%に引き上げ、直接的な株主還元をより重視
- 2012年度以降2022年度まで11期連続増配



※ 2024年5月発表

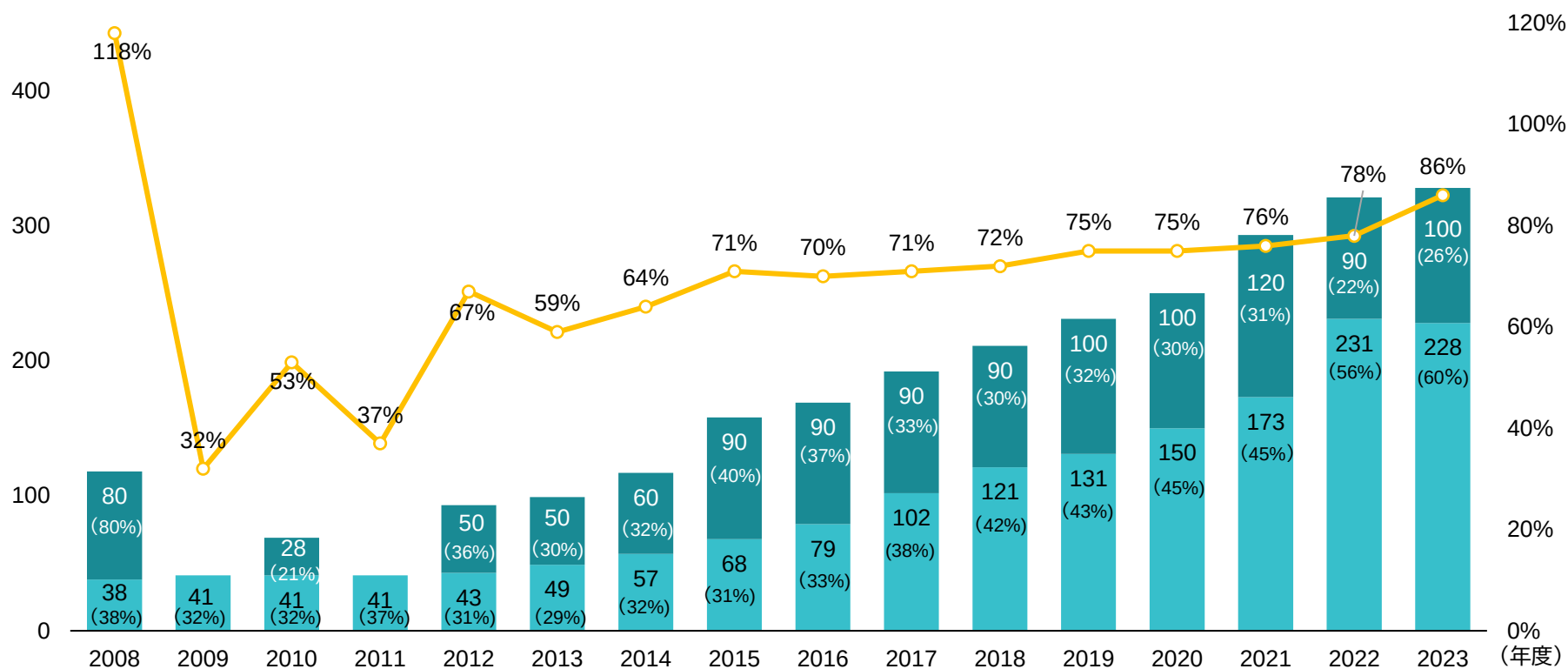
※ EPS、配当性向は自己株式の取得(5月28日発表、100億円)を反映

- 配当と自己株式取得による株主還元の結果、総還元性向は70%台で推移
- 前中期経営計画(2019-2021年度)では、2019年度72.5%、2020年度以降75%が目標で、全て達成(2021年度実績は76%)
- 新中期経営計画(2022-2027年度)では75%が目標(2023年度実績は86%)

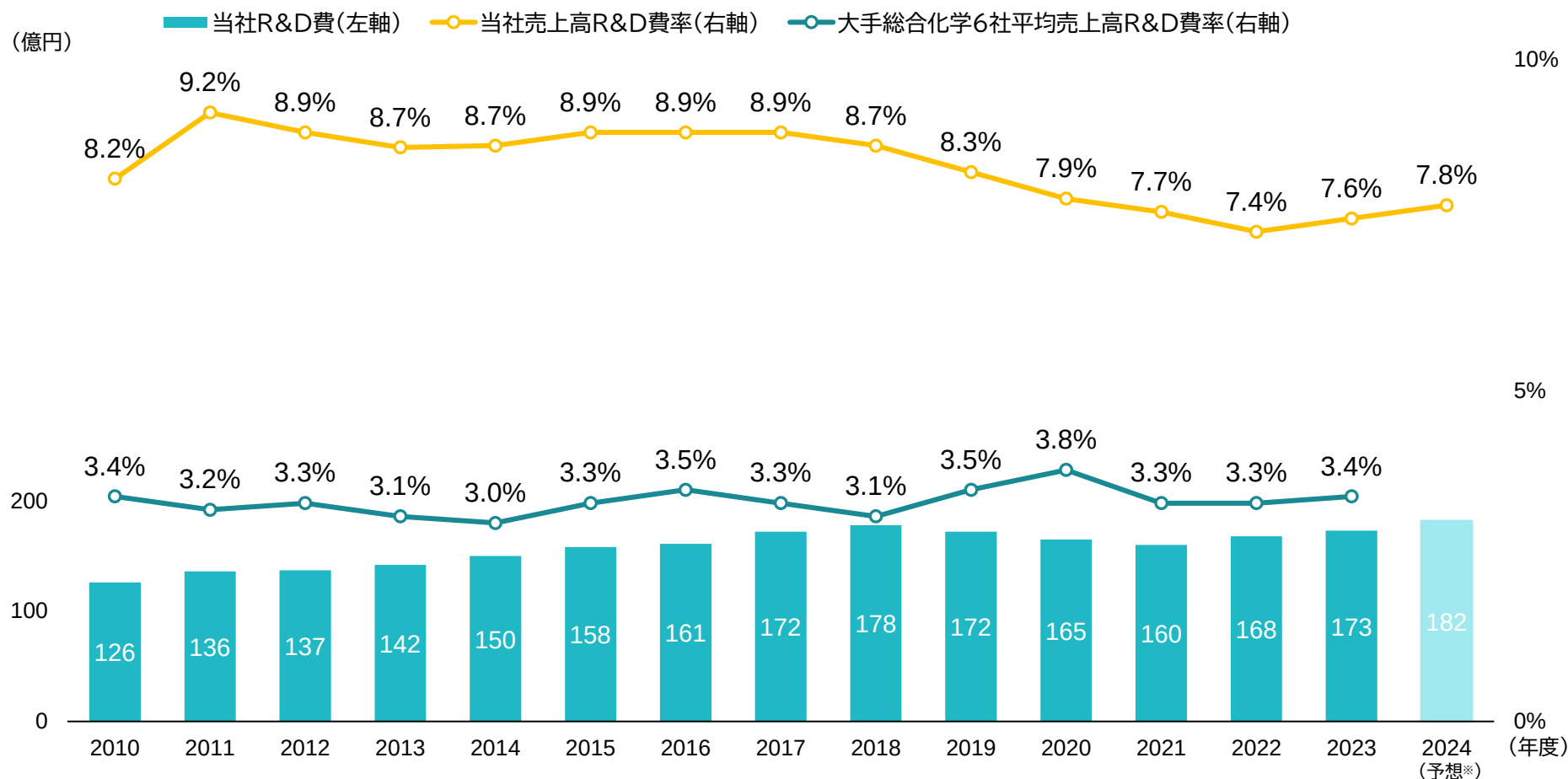
(億円) 配当総額(純利益に占める割合)(左軸)

自己株式取得(純利益に占める割合)(左軸)

総還元性向(右軸)



- 独自の革新的技術で社会の要請に応える未来創造企業
- R&Dを重視し、売上高R&D費率は7-9%と高水準を維持
- 2020-2021年度はコロナ禍で一時的にR&D費用が減少したものの、23年度以降は回復基調

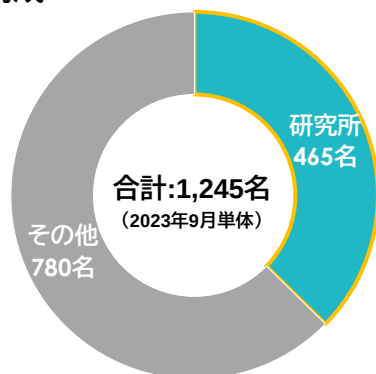


- R&Dに多額の投資を行ってもなお、会社全体で高い営業利益率を確保
- 総合職の約40%は研究開発に関わる人材

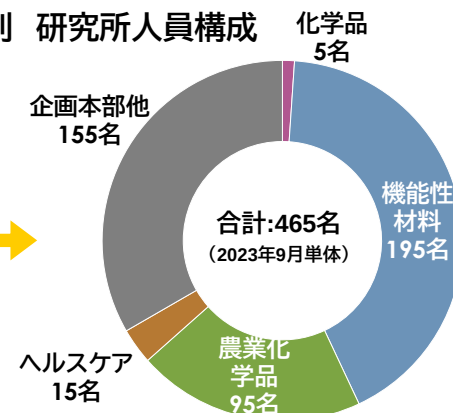
セグメント別研究開発費

セグメント	2023年度 実績				
	売上高 (億円)	営業利益 (億円)	売上高 営業利益率	R&D費 (億円)	売上高 R&D費率
化学品	356	0	0.1%	3	0.8%
機能性材料	846	225	26.6%	82	9.7%
農業化学品	821	234	28.5%	43	5.2%
ヘルスケア	63	28	44.4%	4	6.3%
企画本部他	-	-	-	41	-
合計(企画本部他含む)	2,267	482	21.3%	173	7.6%

総合職 人員構成



セグメント別 研究所人員構成

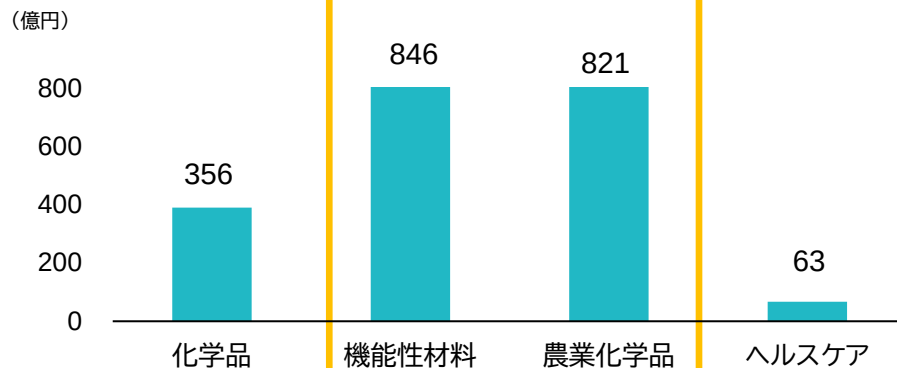


※ 表記している人数は概数

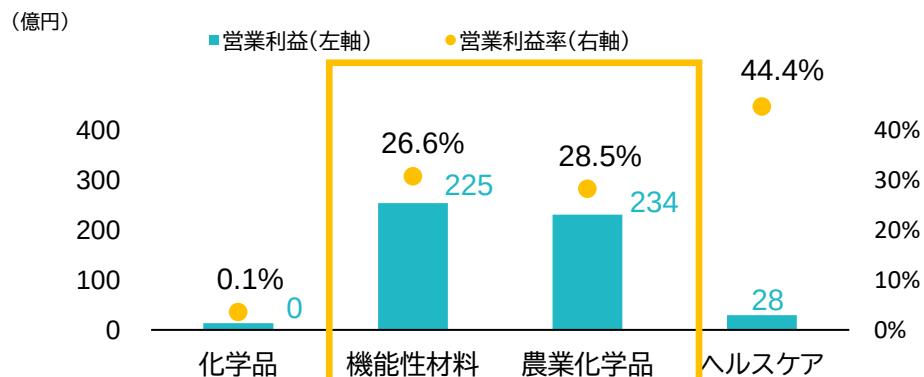
- 主要製品がニッチな市場で高いシェアを有し、成長を牽引
- 高収益、高成長、安定のバランス

2023年度 売上構成

本日説明:機能性材料、農業化学品



2023年度 営業利益構成



化学品

- アンモニア系製品、硫酸系製品、ファインケミカル
- 2016年度、アンモニア製造の原燃料を、ナフサから天然ガスへ転換

機能性材料

- 高収益源、高い市場シェア、新製品開発力
(A) サンエバー: 液晶ディスプレイ用配向膜
(B) 半導体反射防止コーティング材 (ARC®)
- 次世代ディスプレイ、半導体材料開発に注力

農業化学品

- 継続的な研究開発や他社からの買収剤に基づく安定した成長セグメント
- 動物用医薬品原薬フルララネル、新規殺虫剤グレーシアにより成長を見込む

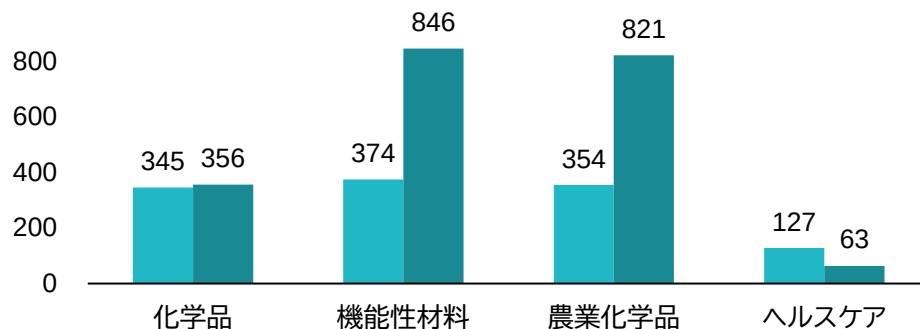
ヘルスケア

- 医療用医薬品の創薬・開発に特化し販売部門を有さない、ユニークなビジネスモデル
- ジェネリック、ペプチド受託に取り組む(ファインテック)

- 主要製品がニッチな市場で高いシェアを有し、成長を牽引
- 高収益、高成長、安定のバランス

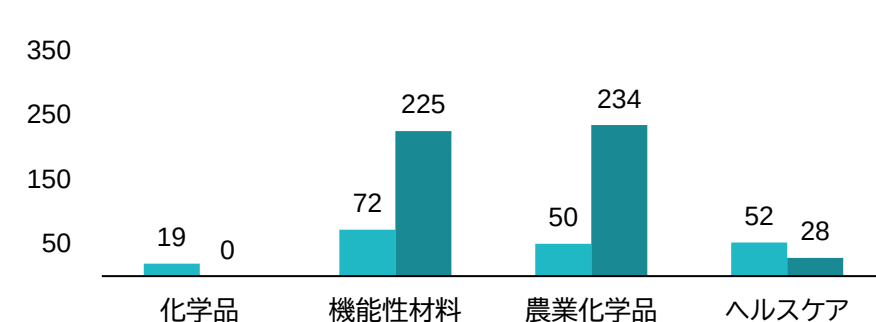
売上構成

(億円) ■ 2012 ■ 2023



営業利益構成※

(億円) ■ 2012 ■ 2023



※ 2022年4月に組織改定を実施。2012年度実績は旧セグメント区分。

化学品

- アンモニア系製品、硫酸系製品、ファインケミカル
- 2016年度、アンモニア製造の原燃料を、ナフサから天然ガスへ転換

機能性材料

- 高収益源、高い市場シェア、新製品開発力
- (A) サンエバー: 液晶ディスプレイ用配向膜
- (B) 半導体反射防止コーティング材 (ARC®)
- 次世代ディスプレイ、半導体材料開発に注力

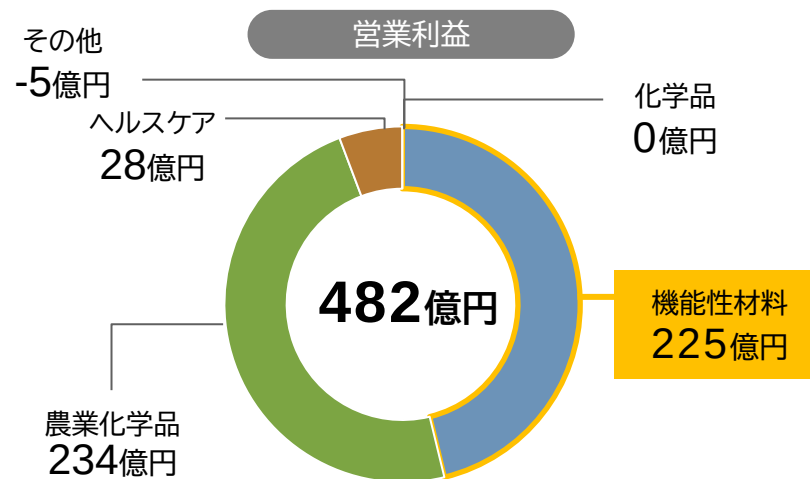
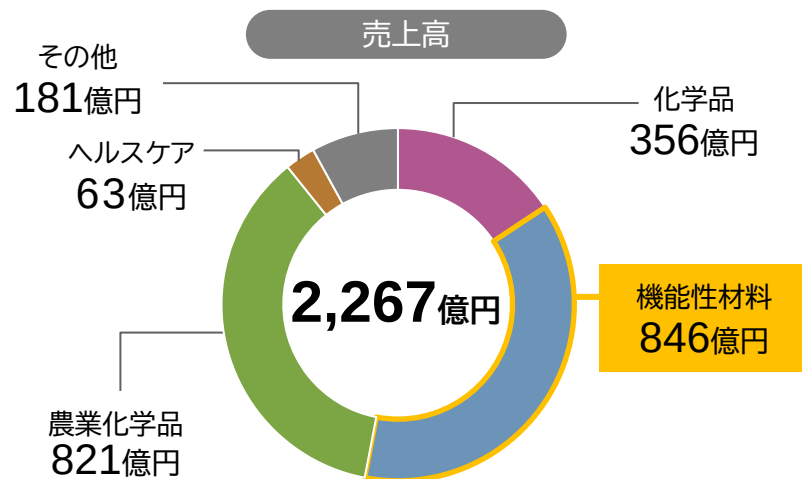
農業化学品

- 継続的な研究開発や他社からの買収剤に基づく安定した成長セグメント
- 動物用医薬品原薬フルララネル、新規殺虫剤グレーシアにより成長を見込む

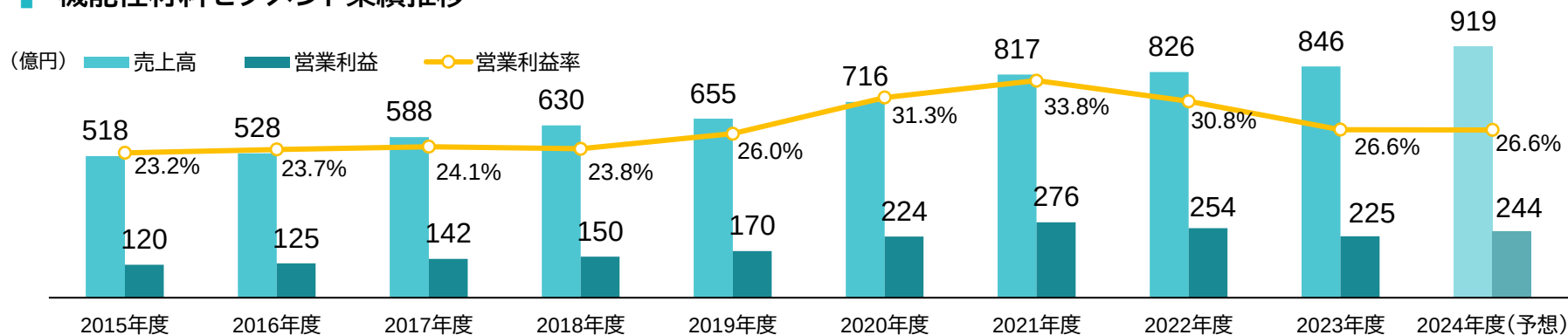
ヘルスケア

- 医療用医薬品の創薬・開発に特化し販売部門を有さない、ユニークなビジネスモデル
- ジェネリック、ペプチド受託に取り組む(ファインテック)

2023年度セグメント別業績



機能性材料セグメント業績推移※1



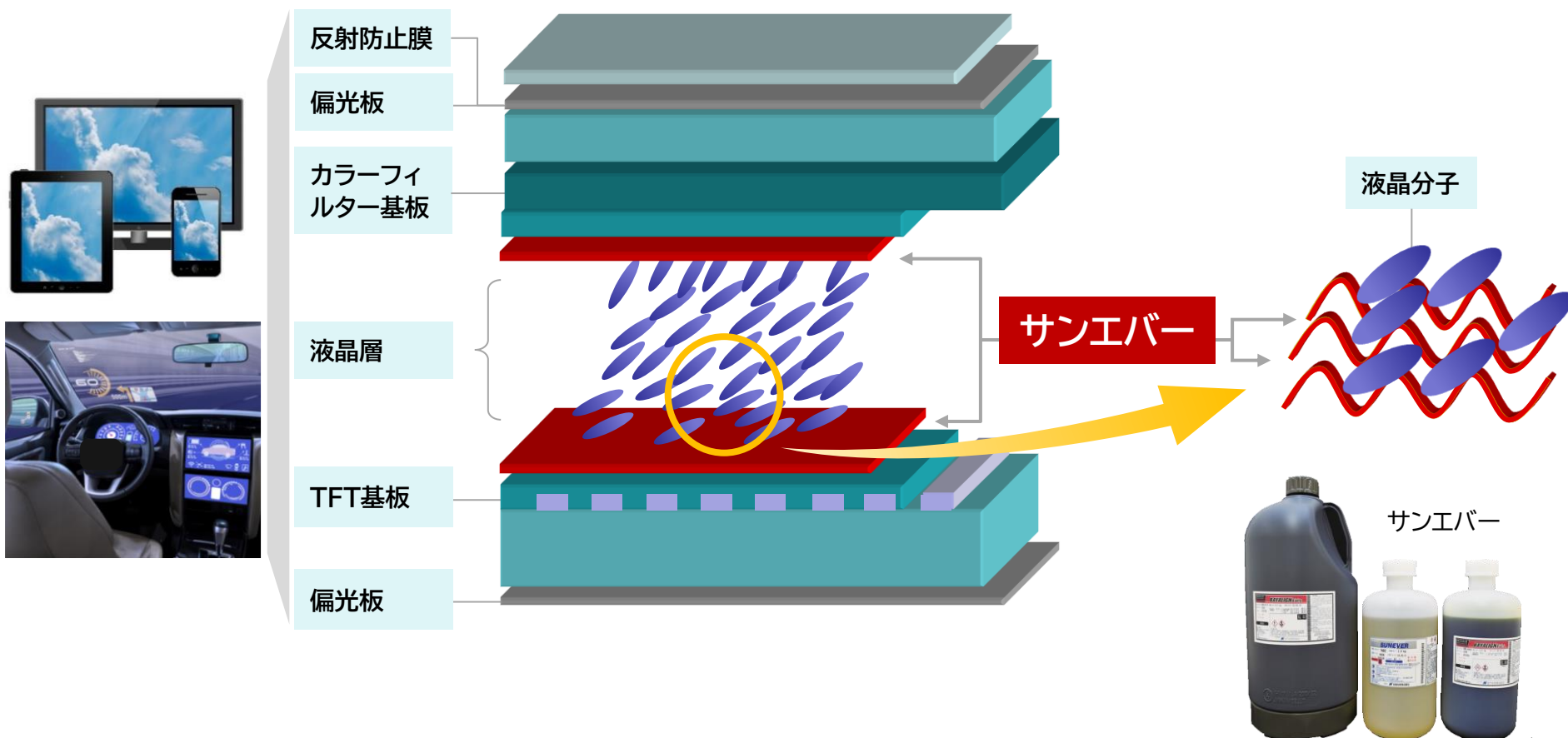
※1 2022年4月に組織改定を実施。2015～2020年度実績は旧セグメント区分。2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み

※2 2024年5月発表

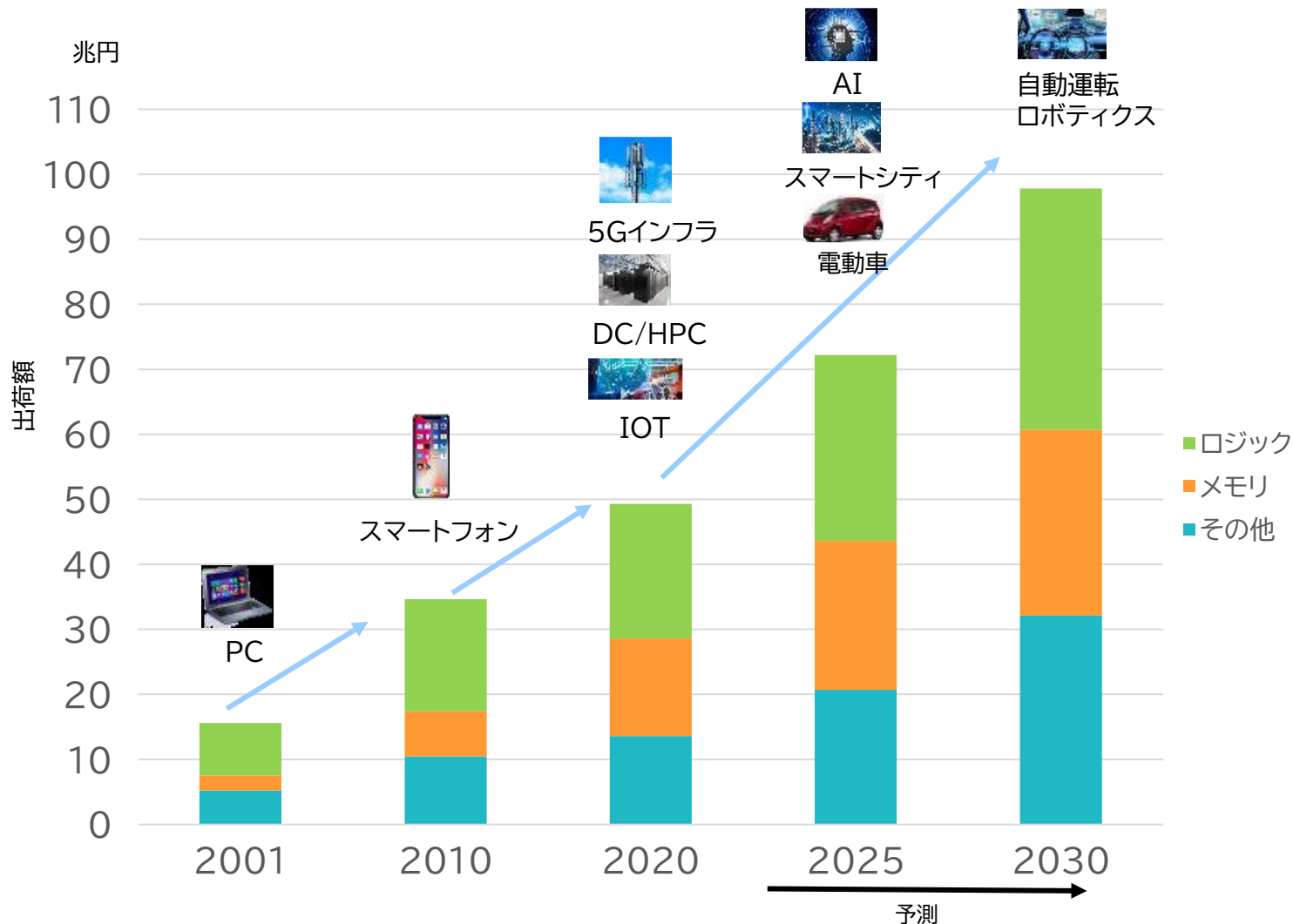
■ 液晶ディスプレイ用配向膜 サンエバー

- ・ 液晶の向き、反応速度、コントラスト、解像度、焼き付きなどを制御する材料
- ・ 当社とA社が世界二大メーカー
- ・ 当社は、新技術の光配向IPS市場において、スマホ・タブレット・ノートPC・モニター・車載向けで圧倒的シェア

■ 液晶パネル断面図



■ 世界の半導体市場



12インチウエハ 塗布装置
※材料科学研究所(富山)



反射防止コーティング材
(ARC®)

(出典)経済産業省 2021年11月 第4回半導体・デジタル産業戦略検討会議資料

https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/joho/conference/semicon_digital/0004/03.pdf

■ 半導体反射防止コーティング材(ARC[®] : Anti-Reflective Coating for semiconductor)

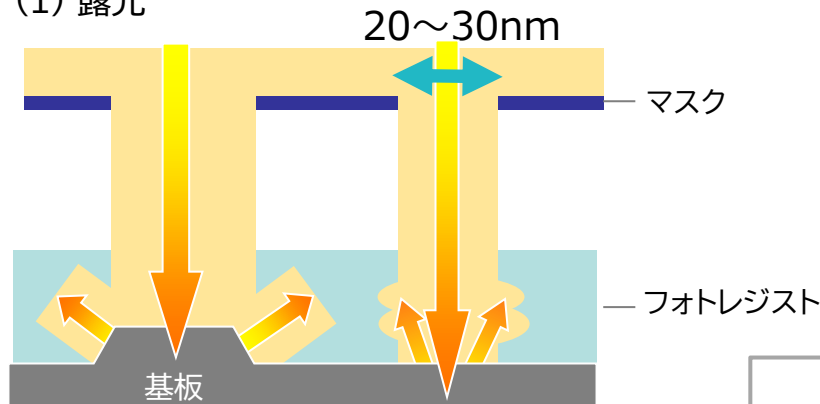
- ・ 露光時に光の反射を防止することにより、微細なパターン形成を可能とするコーティング材料
- ・ 当社は、アジアで圧倒的最大のシェアを有し、アジアの半導体産業の成長とともに当社事業も拡大

※ ARC[®]およびOptiStack[®]はBrewer Science, Inc. の登録商標

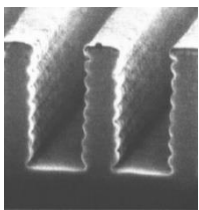


コーティング不使用

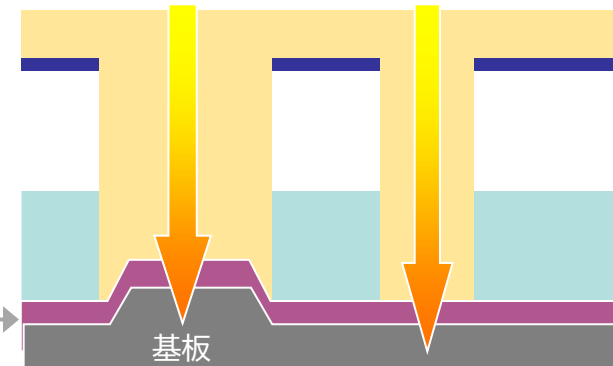
(1) 露光



(2) 現像後

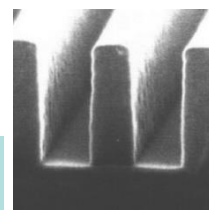


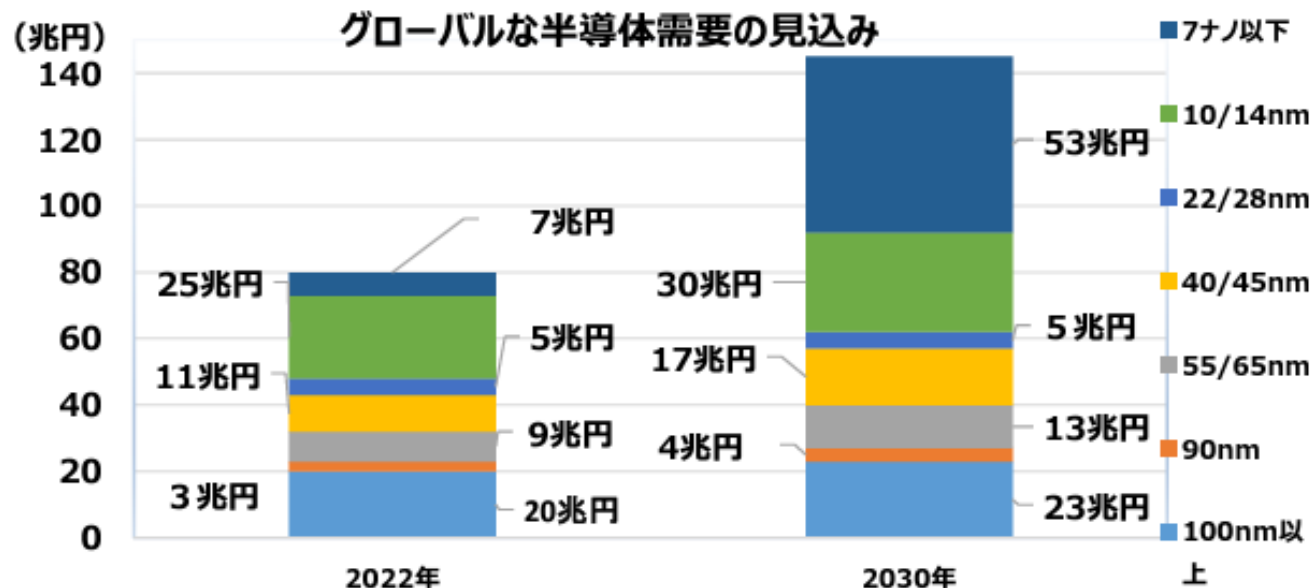
コーティング使用



反射防止コーティング

反射しない



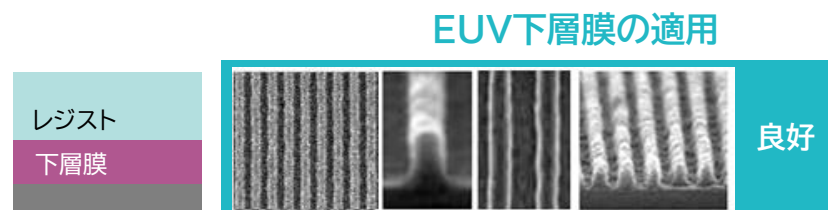
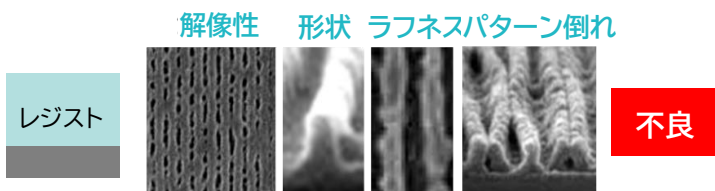


(注) OMDIAや専門家へのヒアリング等を元にしたMcKinsey&Companyによる分析

(出典)経済産業省 2024年5月 第11回半導体・デジタル産業戦略検討会議資料

https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/joho/conference/semicon_digital/0011/handeijisetr.pdf

■ EUV下層膜



下層膜はEUVリソグラフィーにおける必須材料へ
→ 量産展開中

NCK半導体工場

工場所在地

韓国忠清南道唐津市松山2産業団地

事業内容

半導体用材料の製造、販売

商業稼動

2024年度より稼働開始予定

投資額

90億円(概数)

償却方法

6年定率法(初年度33%を償却)



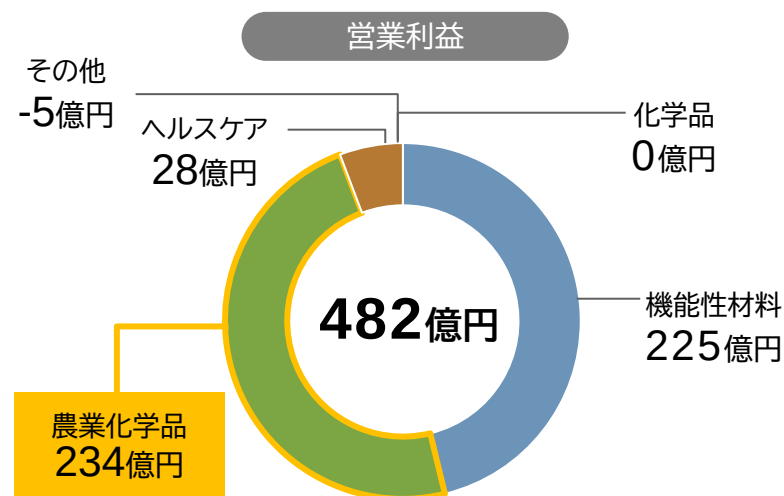
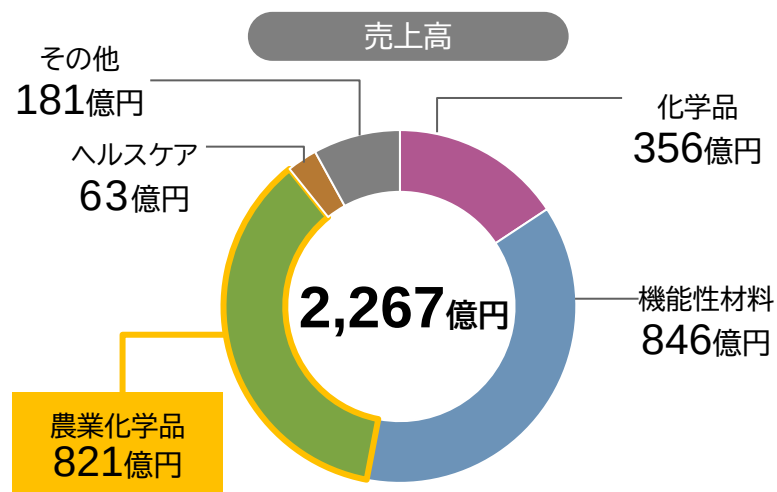
償却費負担は2024年度がピークで、
2025年度以降は減少していく見通し

- 高い収益率
- 新製品開発力（2023年度売上高研究開発費率9.7%）
- 半導体事業の回復時期
- 半導体事業の業績のボラティリティ
- 液晶ディスプレイ市場の将来性、成長性

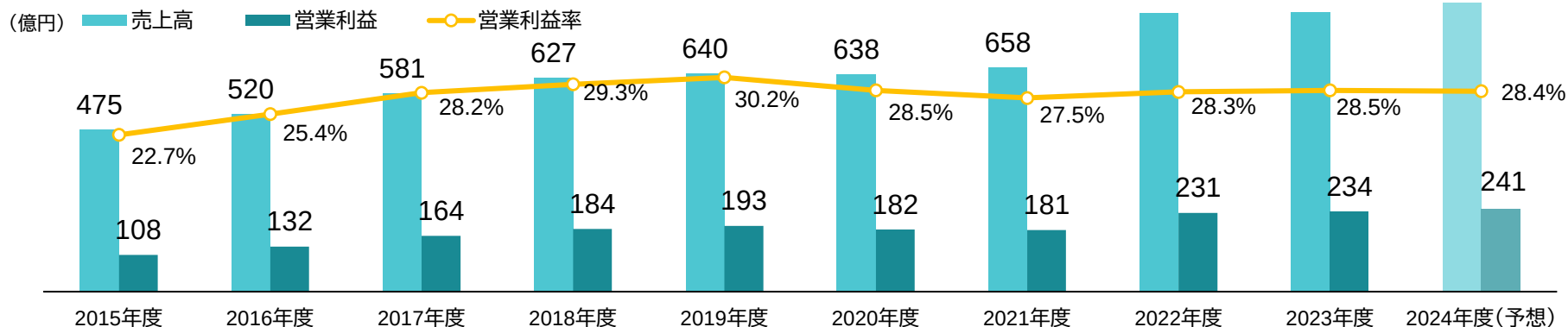
セグメント別研究開発費

セグメント	2023年度 実績				
	売上高 (億円)	営業利益 (億円)	売上高 営業利益率	R&D費 (億円)	売上高 R&D費率
化学品	356	0	0.1%	3	0.8%
機能性材料	846	225	26.6%	82	9.7%
農業化学品	821	234	28.5%	43	5.2%
ヘルスケア	63	28	44.4%	4	6.3%
企画本部他	-	-	-	41	-
合計(企画本部他含む)	2,267	482	21.3%	173	7.6%

2023年度セグメント別業績



農業化学品セグメント業績推移※1



※1 2022年4月に組織改定を実施。2015～2020年度実績は旧セグメント区分。2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み

■ 農薬市場規模 上位5か国

国別農薬市場規模 (CY2021)

順位	国	百万\$
1	ブラジル	11,327
2	アメリカ	8,753
3	中国	7,521
4	日本	3,572
5	インド	3,104

日本は世界4位の農薬市場

■ 国内農薬メーカーの開発力の高さ

全世界における日本企業の新農薬開発割合※2
1980-2019年 新規剤上市
: **33%** (122剤/368剤)

日本企業の規模は欧米大手企業と比べて小さいが、
新規剤研究開発力は相対的に高い

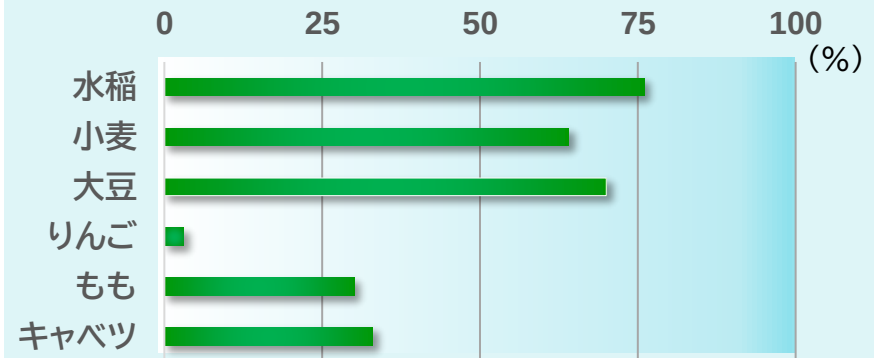
※1 JCPA農薬工業会公表データを基に作成 (https://www.jcpa.or.jp/qa/a6_17.html)

※2 出典:Phillips McDougall, AgriService, 2019

■ 作物収量増加への貢献

世界の人口は2050年までに97億人に達する予測(国連推計)

■ 農薬を使用しなかった場合の収量※1
(農薬使用時の収量を100%とした場合の、農薬不使用時の収量)

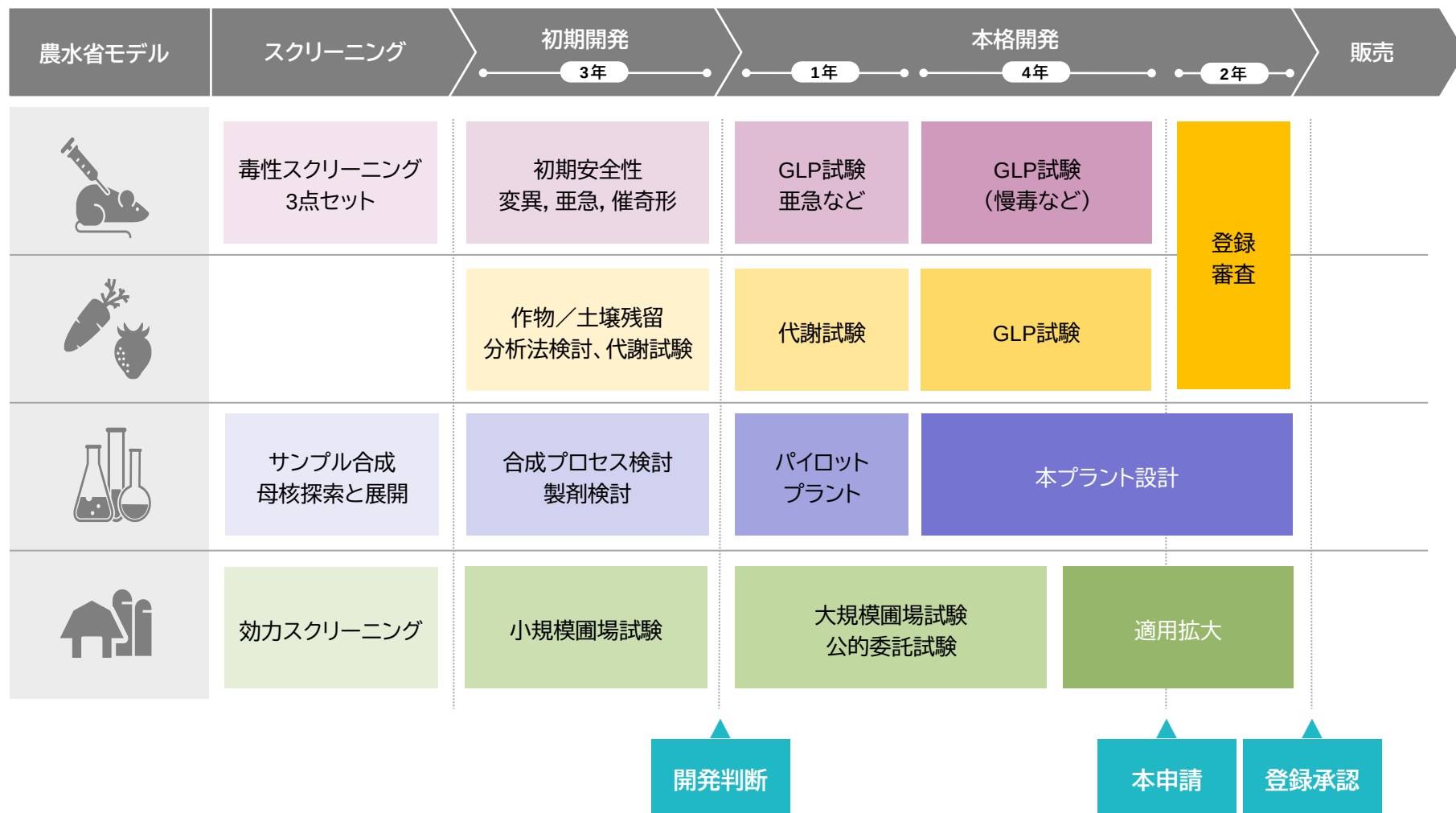


■ 日本の地理的特徴

■ ヨーロッパと日本の比較



日本は南北に長く、多種多様な気候・栽培条件



- 新剤開発には、長期間、多額の研究開発費を要する
- 経済変動の影響が小さい安定的事業
- 自社開発新剤を柱に、剤の買収・導入による販売力強化
 - 2019年11月 殺菌剤キンテック買収
 - 2020年12月 殺菌剤ダイセン買収
(ともに米国コルテバ社より)
- 国内農薬販売額No.1(2021年10月～2022年9月)
- 現在は、アルテア(水稻用除草剤)、フルララネル(動物用医薬品原薬)、グレーシア(殺虫剤)などを成長エンジンとして高成長

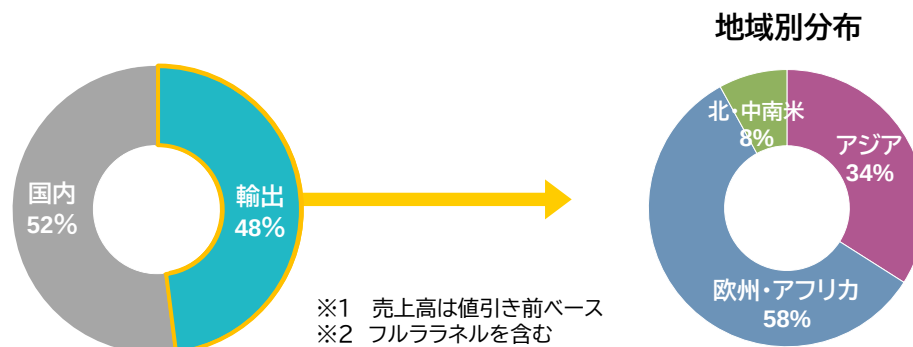
	上市年度	製品名	分類	開発経緯	備考
既存製品	2002	ラウンドアップ	除草剤	買収	米国モンサント社より国内事業を買収、継続成長中
	2008	ライメイ	殺菌剤	自社開発	
	2008	スターマイト	殺虫剤	自社開発	
	2009	パルサー(チフルザミド)	殺菌剤	買収	米国ダウ社より世界事業を買収
	2010	ラウンドアップマックスロードAL	除草剤	自社開発	一般家庭向け希釈済みシャワータイプ除草剤。2016年AIⅡ、2017年AIⅢ上市
	2011	アルテア	除草剤	自社開発	2011年韓国で上市、2012年日本で上市
	2013	フルラナレル	動物用医薬品原薬	自社開発	米国MSD社※1向けにブラベクト®原薬として出荷開始
	2014	ブラベクト®※2	ペット動物用医薬品	-	2014年4月欧州、6月米国、15年7月日本で上市
新製品・パイプライン	2017	トランスフォーム™/エクシード™ /ビレスコ™	殺虫剤	導入	米国ダウ社より導入
	2018	グレーシア	殺虫剤	自社開発	広範囲の重要害虫に有効、ミツバチへの影響が少ない。 2018年韓国、2019年日本、2021年インド・インドネシアで上市 以降、順次販売国拡大中(ピーク時売上高目標100億円)
	2019	クインテック(キノキシフェン)	殺菌剤	買収	2019年11月米国コルテバ社より世界事業を買収。果樹野菜のうどんこ病(カビの1種)の発病予防に非常に効果的
	2020	ダイセン(マンゼブ)	殺菌剤	買収	2020年12月米国コルテバ社より日本・韓国事業を買収。 果樹野菜用の保護除菌剤、耐雨性に優れる
	2024	ベルダー(ジメスルファゼット) (NC-653)	除草剤	自社開発	イネへの優れた安全性があり、抵抗性ホタルイや難防除雑草クログワイに高い効果を持つ(ピーク時売上目標35億円)
	2027	未定(NC-520)	殺虫剤	共同開発	他社との共同開発の新規水稲用殺虫剤。ウンカ類への効果が高い (混合剤も含めピーク時売上目標25億円)
	2027	未定(イブトリアゾピリド) (NC-656)	除草剤	自社開発	抵抗性イネ科雑草(ヒエ・アゼガヤ)に優れた効果を持つ。当社初の 水稲用茎葉除草剤(ピーク時売上高目標100億円)

新製品群の
ピーク時売上高
目標合計
310億円

※1 MSD社:米国メルク社のアニマルヘルス事業部門のMSD Animal Health 社の略称 ※2 ブラベクト®:MSD社の販売製品名

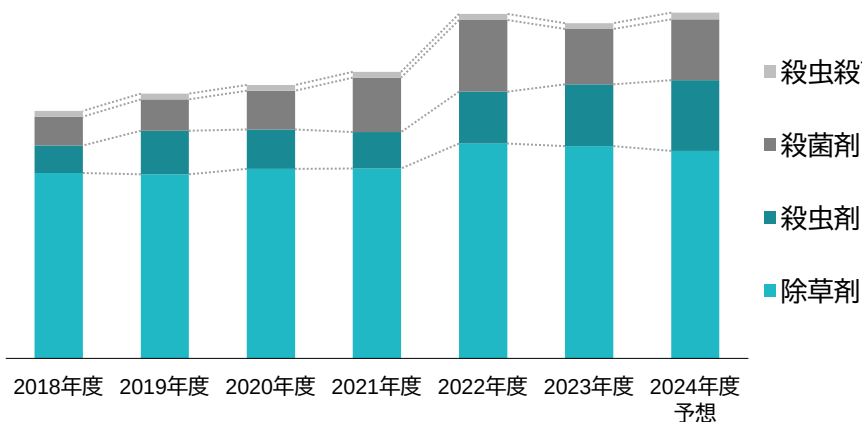
国内農薬販売 第1位(2021年10月～2022年9月)
農薬売上高は国内向けの方が海外向けよりも大きい

■ 農業化学品セグメントの輸出比率(2023年度実績)※1・2

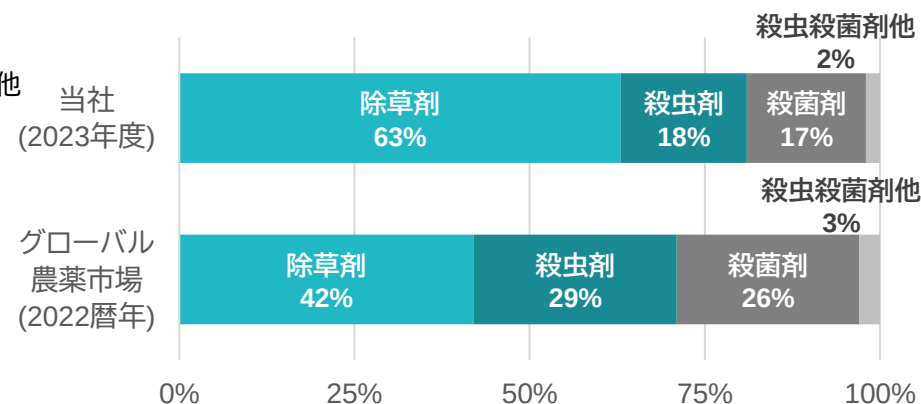


既存剤の拡販、自社開発剤の上市、剤の買収・導入により、製品ポートフォリオの拡充を進める

■ 当社の農薬売上高推移



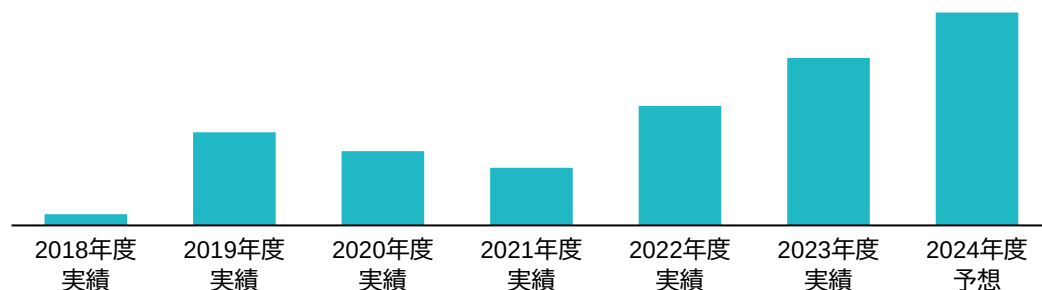
■ 当社の農薬売上高構成比



グレースシア

- 野菜、茶用殺虫剤
- 広範囲の害虫に有効で、既存剤に抵抗性を示す害虫にも効果を発揮
- 有効成分が直接害虫に作用し、速く効く
- ミツバチへの影響が少ない
- 日本、韓国、インドなどで販売中

グレースシア売上高



速く効く。
あの害虫にも効く。
だから、
収量に差がつく。^{*2}

無処理 駆除率 0% A剤 駆除率 20% グレースシア乳剤 駆除率 90%

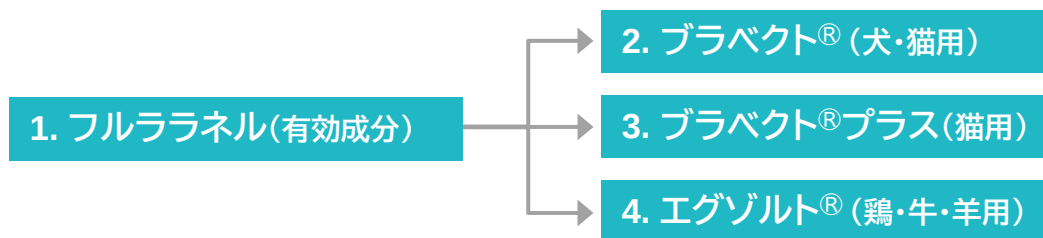
食害される前に駆除できる。

グレースシア® 乳剤

- 有効成分フルキサメタミド配合。抵抗性コナガにも有効
- 葉内に潜居が原因、葉裏の害虫も選別
- 幅広いがよの目害虫に効果
- 殺虫効果は約2週間持続

日産化学株式会社

- 当社が発明した化合物「フルララネル」を有効成分とするブラベクト®シリーズ・エグゾルト®は現在100か国以上で販売中
- ブラベクト®最大の特徴は12週間にわたる効果持続性(既存製品は1か月程度)



1. フルララネル(Fluralaner)

- ブラベクト®・エグゾルト®の有効成分。当社がMSD社※1に供給
- これまでのペット用外部寄生虫薬とは異なる新たな作用機序を有している
- 化合物特許
 - 2025年3月に終了するが、多数の国で延長制度あり
 - UK、ドイツ、フランス等一部欧州諸国では、2029年2月まで延長済み、米国は延長申請中

2. ブラベクト® (BRAVECTO®)

- MSD社が開発したペット用外部寄生虫薬。犬・猫のノミ、マダニの主要種に対し即効性に優れる
- 通常1か月毎に投薬する既存製品より殺虫効果の持続性が長く、12週間※2にわたって持続する
- 犬向けチュアブルタブレット(経口投与製剤)
 - 2014年4月欧州、以降米国、日本等で上市
 - 2020年7月1か月剤(子犬向け)米国上市
- 犬、猫向けスポットオン製品(経皮投与製剤)
 - 2016年7月欧州、以降米国、日本等上市

3. ブラベクト®プラス (BRAVECTO® Plus)

- 猫向け内外寄生虫スポットオン合剤
 - 2018年7月欧州、以降米国、日本等上市

4. エグゾルト® (EXZOLT®)

- 鶏向けワクモ駆除剤(飲水投与)
 - 2017年9月欧州、以降韓国、中東等上市、2021年7月日本上市
- 牛向け
 - 2022年9月ブラジル上市、2023年4月メキシコ上市
- 羊向け
 - 2023年豪州、NZにて上市

※1 米国メルク社のアニマルヘルス事業部門のMSD Animal Health 社の略称 ※2 クリイロコイタマダニは8週間

Nissan Bharat Rasayan Private Limited(NBR)

工場所在地

グジャラート(Gujarat)州サイカ(Saykha)に新設
(土地は同州産業開発公社(GIDC)より賃借)

事業内容

当社の農薬(グレースシア、ライメイ等)原体を製造し、当社へ販売

商業稼働

2022年度4Qより稼働開始済み

投資額

60億円(概数)

償却方法

10年定額法



2023年度より、以下の事項を主要検討項目とし、
StageⅡ(25～27年度)の策定を進めている。

(1)新製品・新事業創出の加速化

- 1)開発テーマの選択と集中の徹底とその仕組みづくり
- 2)M&A、技術導入、他社との協業の推進

(2)現有事業の拡大と収益力強化

- 1)化学品事業のビジネスモデルの再検討と構造改革
- 2)事業領域深耕によるコア成長事業の伸長

1Q

業績予想比

(2024年5月発表予想との比較)

- 売上高は、25億円上ぶれ(+4%)
- 営業利益は、25億円上ぶれ(+21%)
- 純利益は、23億円上ぶれ(+25%)

1Q

前年同期比

- 売上高は、38億円増収(+7%)
- 営業利益は、6億円減益(-4%)
主要セグメント※1合計では1億円増益
- 純利益は、6億円減益(-5%)

※1 化学品、機能性材料、農業化学品、ヘルスケア

株主還元の状況

- 自己株式取得
5月13日発表の50億円に加えて、5月28日に追加50億円を発表
上限100億円、期間:2024年5月~2025年3月

業績予想

- 上期及び通期の業績予想は、2024年5月13日発表より変更なし

2027年の企業像実現のため、当社が取り組むべきマテリアリティ(重要課題)を特定
取り組みを推進することで社会とともに持続的な成長を目指す

▶▶▶1

人びとの暮らしに役立つ
新たな価値の提供

▶ 日産化学サステナブル
アジェンダ※1

社会課題解決に貢献する製品・
サービスの全売上に占める割合
55%以上維持

※1 社会課題解決に貢献する製品・サービスの提供により、
「地球と人の未来のためにできること」を追求する計画

▶▶▶2

自社事業基盤の強化

▶ 人材の確保・育成
人材育成に関する社員意識調査
肯定回答率
65%以上

▶ ダイバーシティ推進
研究所女性総合職比率 **18%以上**

▶▶▶3

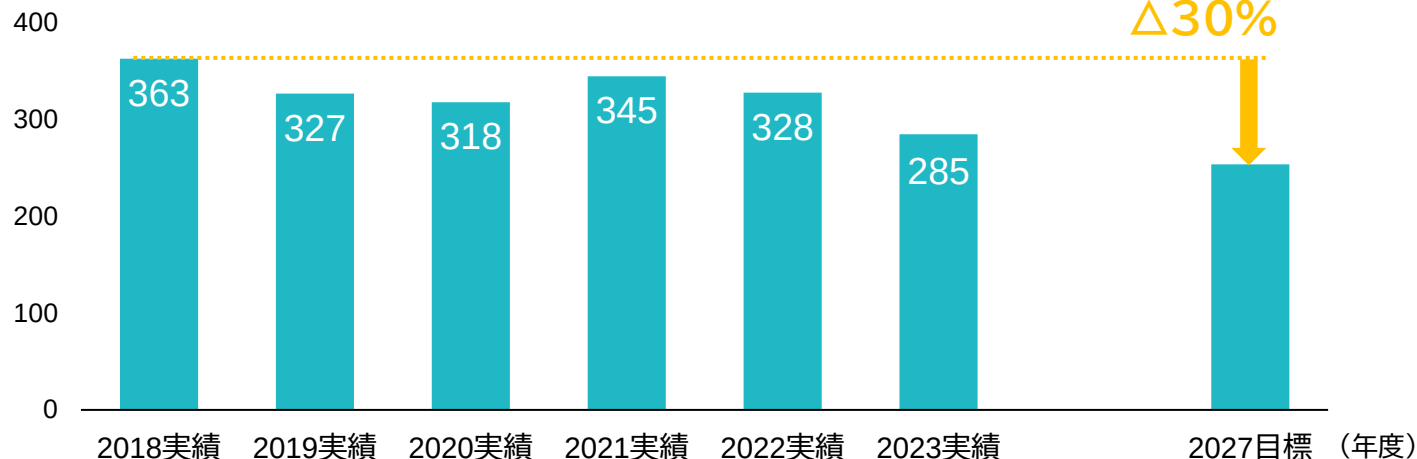
レスポンシブル・ケア活動の
継続的強化

▶ GHG排出削減目標
2018年度比 **30%以上削減**

当社グループの最重要課題

コーポレート・ガバナンス、リスクマネジメント、コンプライアンスの強化

- 2050年のカーボンニュートラル実現に向け、従来の取り組みに加え、生産技術の改善や再生エネルギー導入などに注力する
- GHG排出量2027年度目標:2018年度比30%削減(SCOPE1+2)

(千トン-CO₂e)

他社とのGHG排出量の比較

(千トン-CO₂e)

年度	2011	2018	2019	2020	2021	2022
日産化学(単体ベース)	448	363	327	318	345	328
大手総合化学4社平均 (連結ベース)	-	-	9,275	8,928	9,226	8,390

中期経営計画 Vista2027

(2022-2027年度)における取り組み

- 硝酸プラントからのN₂O排出ゼロ
(予定投資額 500百万円 変動費50百万円/年)
- メラミン製造中止
- 小野田工場燃料転換
- ICP本格導入によるGHG排出削減推進
- フロン機器の削減
- 省エネ機器への更新

E

(環境)

S

(社会)

- | | |
|---------|---|
| 2021年4月 | ダイバーシティステートメントおよびダイバーシティビジョンを設定 |
| 2022年5月 | 2050年にカーボンニュートラルへ
温室効果ガス(GHG)排出削減長期目標を設定 |
| 2022年6月 | メラミン停止によるGHG削減(26千トン、2018年度実績の約7%に相当) |
| 2022年6月 | 気候変動対策委員会設置 |
| 2023年9月 | 「 統合レポート2023 」を発行 |

G

(ガバナンス)

- | | |
|---------|---|
| 2019年4月 | 指名・報酬諮問委員会設置(取締役会の任意の諮問機関) |
| 2019年6月 | 取締役等を対象に業績連動型株式報酬制度導入(株式給付信託) |
| 2022年6月 | 役員報酬体系にESG指標を組入れ(基本報酬65%、業績報酬28%、株式報酬7%
業績報酬28%のうち、利益連動部分90%、ESG連動部分10%) |
| 2024年6月 | 女性取締役(社外)2名選任(再任)(取締役は計10名、うち社外4名) |
| 2024年6月 | 「 コーポレートガバナンス報告書 」を更新 |

Dow Jones Sustainability Asia Pacific Index

- 2023年12月
6年連続で構成銘柄に選定

Member of
Dow Jones
Sustainability Indices
Powered by the S&P Global CSA

FTSE

- 2024年6月 FTSE4Good Index Series、FTSE Blossom Japan Index Seriesの構成銘柄に5年連続選定
- 2024年6月 FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexの構成銘柄に3年連続選定

※ FTSE Russell (FTSE International Limited と Frank Russell Companyの登録商標)はここに日産化学株式会社が第三者調査の結果、FTSE Blossom Japan Sector Relative Index組み入れの要件を満たし、本インデックスの構成銘柄となったことを証します。FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexはサステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価に広く利用されます。



健康経営優良法人 -ホワイト500-

- 2024年3月 8年連続認定



日経統合報告書アワード

- 2024年2月 「優秀賞」 に選定



外部イニシアティブへの参画



S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数

- 2023年6月
5年連続で構成銘柄に選定



MSCI

- 2023年6月 MSCI ESG格付け BBBからAへ格上げ
- 2024年1月 MSCI日本株ESGセレクト・リーダーズ指数
構成銘柄に選定
- 2024年6月 日本株女性活躍指数 (WIN)
5期連続構成銘柄に選定

2024 CONSTITUENT MSCI日本株 ESGセレクト・リーダーズ指数 **2024 CONSTITUENT MSCI日本株 女性活躍指数 (WIN)**

※ MSCI指数への日産化学株式会社の組み入れ、および本ページにおけるMSCIロゴ、商標、サービスマーク、または指数名称の使用は、MSCIまたはその関係会社による日産化学株式会社の後援、保証、または販売促進ではありません。MSCI指数は、MSCIの独占的財産です。MSCIおよびMSCI指数の名称とロゴは、MSCIまたはその関係会社の商標またはサービスマークです。

Morningstar

- 2023年3月 Japan ex-REIT Gender Diversity Tilt Indexの構成銘柄に選定

「子育てサポート企業」くるみん

- 2023年1月 2回連続認定



証券アナリスト協会「2023年度ディスクロージャー優良企業」

- 化学・繊維部門 第2位(2020年度第1位、2021年度第3位、2022年度第2位、2023年度第2位)

JPX Prime 150指数の構成銘柄に選定

- 株式会社JPX総研が開発した新たなインデックス指数。東証プライム市場構成銘柄の時価総額上位500社の中から「価値創造が推定される我が国を代表する企業」という位置づけで、価値創造を測る2つの指標に基づいて選定。

※2つの指標は(1)ROE(株主資本利益率)と株主資本コストとの差である「エクイティ・スプレッド」、(2)株価による市場評価である「PBR」。
当社は、「エクイティ・スプレッド」基準により選定

Institutional Investor “2024 All-Japan Executive Team Rankings”

化学セクター

- 総合ベストCFO 第2位 大門CFO
- 総合ベストIR Teams 第2位
- 総合ベストIR Programs 第2位

全セクター

- Most Honored Company受賞
(6年連続)

IR／サステナビリティホームページ

- | | |
|--|----------------|
| ■ 日興IR「2023年度ホームページ充実度ランキング」 | 最優秀サイト受賞(6年連続) |
| ■ 大和IR「2023年インターネットIR表彰」 | 優秀賞受賞(2回目) |
| 同サステナビリティ部門 | 優秀賞受賞(3年連続) |
| ■ ブロードバンドセキュリティ「Gomez IRサイトランキング2023」 | 金賞受賞(2年連続) |
| ■ ブロードバンドセキュリティ「Gomez ESGサイトランキング2023」 | 優秀企業受賞(4年連続) |



既存のコア技術に加え、新技術を獲得し、3つの成長事業に関する新たな領域に進出
コア技術の深化と融合により各事業領域の成長を加速させ、社会課題解決に貢献する

社会課題
の解決

地球環境の保全
食料問題の解決

気候変動の緩和
スマート社会の実現

健康問題への対応
生活の質の向上



事業

新たな領域
への進出

① 情報通信

- 半導体材料
- ディスプレイ材料
- 光機能性材料

● センシングシステム
(IoTセンサー材料) (生体模倣センサー)

- メタマテリアル材料

② ライフサイエンス

- 農業
- 動物薬
- 生体材料
- 医薬品
(低分子、核酸、ペプチド)

● マイクロバイーム
(農業・医療) (微生物資材)

- バイオスティミュラント

③ 環境エネルギー

- 2次・燃料電池材料

- 次世代太陽電池材料
- CCUS材料

- CO₂還元システム

④ 素材・サービス

- 工業薬品
- コロイダルシリカ
- 関係会社

成長事業

基盤事業

コア技術

既存技術

精密有機合成

機能性高分子設計

微粒子制御

生物評価

光制御

新技術

微生物制御

情報科学

- 営業利益・経常利益は9年連続・純利益は10年連続、過去最高益を更新
- 2023年度は、半導体市場の低調などにより、一時的な減益

(億円)

	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024 (予想)
売上高	1,637	1,712	1,769	1,803	1,934	2,049	2,068	2,091	2,080	2,281	2,267	2,341
営業利益	222	253	286	314	350	371	386	425	510	523	482	500
経常利益	237	264	295	317	362	391	400	439	537	558	516	505
純利益	167	182	224	240	271	294	308	335	388	411	380	384
売上高営業利益率	13.6%	14.8%	16.2%	17.4%	18.1%	18.1%	18.7%	20.3%	24.5%	22.9%	21.3%	21.4%
ROE	12.7%	12.7%	14.6%	15.1%	16.1%	16.6%	16.9%	17.5%	19.2%	19.4%	17.1%	16.7%
EPS(円/株)	102.11	113.99	143.37	156.97	180.30	197.67	210.09	231.73	271.88	291.36	272.82	279.08
配当(円/株)	30	36	44	52	68	82	90	104	122	164	164	164
配当性向	29.4%	31.6%	30.7%	33.1%	37.7%	41.5%	42.8%	44.9%	44.9%	56.3%	60.1%	58.8%
総資産	2,080	2,239	2,282	2,317	2,460	2,470	2,495	2,655	2,797	2,987	-	-
純資産	1,378	1,513	1,569	1,637	1,764	1,821	1,855	2,006	2,080	2,215	-	-
自己資本比率	65.7%	66.9%	68.1%	69.9%	71.0%	73.0%	73.7%	74.9%	73.6%	73.1%	-	-
R&D	142	150	158	161	172	178	172	165	160	168	173	182
同 売上高比率	8.7%	8.7%	8.9%	8.9%	8.9%	8.7%	8.3%	7.9%	7.7%	7.4%	7.6%	7.8%

※ 2024予想:ROE、EPS、配当性向は自己株式の取得(5月28日発表、100億円)を反映

※ 2021- :会計方針の変更影響を含む

1. 方針の変更 「収益認識に関する会計基準(企業会計基準29号)」を適用
2. 適用時期 2021年4月1日より
3. 方針変更に伴うPL、BSへの主な影響

2021年度のPLへの影響額(前年同期比) (億円)

	2021実績						
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	年間
売上高の増減※1	-35	-74	-109	-17	-103	-120	-229
営業利益の増減※2	+12	-21	-9	+40	-32	+8	-1

※1 (1)代理人取引、(2)売上高を基礎としたロイヤリティ収入、(3)変動対価、の影響合計

※2 (2)売上高を基礎としたロイヤリティ収入、(3)変動対価、の影響合計

(1) 代理人取引

主たる適用セグメント	化学品、農業化学品、卸売
適用後	売上総利益額見合の売上高のみ表示(適用前は売上高、売上原価を総額で表示)
2021年度PLへの影響額	■ 売上高、売上原価がそれぞれ228億円減少、営業利益には影響せず ■ 各セグメントの売上高には影響させず、「調整額」で控除

(2) 売上高を基礎としたロイヤリティ収入

主たる適用セグメント	農業化学品(動物薬ロイヤリティ収入)
適用前(2020年度まで)	MSD社※ 1-6月売上高見合を8月、7-12月売上高見合を翌年2月に計上
適用後(2021年度より)	MSD社※ 1-3月売上高見合を5月、4-6月売上高見合を8月、7-9月売上高見合を11月、10-12月売上高見合を翌年2月に計上

※ MSD社:米国メルク社のアニマルヘルス事業部門のMSD Animal Health 社の略称

(3) 変動対価(販売時点では変動する可能性のある売上値引など)

主たる適用セグメント	農業化学品
適用後	■ 売上期間に応じて見積もり計上(適用前は金額確定時に計上) ■ 適用前に比べ、値引額は1Q増加(マイナス影響)、2Q減少、上期増加、下期減少、年間ほぼなし、の傾向
2021年度BSへの影響額	2021年度期首利益剰余金(BS項目)が2020年度の遡及修正で15億円減少(税効果反映後)
適用前(2020年度)	2020農年(2019年10月-2020年9月)の売上見合い値引きのみ計上
適用後(2020年度)	上記に加え、2020年10月-2021年3月の売上見合い値引き15億円追加計上

http://www.nissanchem.co.jp/ir_info/index.html

- ・IR新着情報
 - ・個人投資家の皆様へ
 - ・経営方針
 - ・業績・財務
 - ・株式情報
 - ・IRカレンダー
 - ・株価情報
 - ・最新資料ダウンロード
- などを掲載しています



The screenshot displays the Nissan Chemical IR website. The header includes the company name and navigation links. The main content area is divided into several sections:

- IR新着情報 (IR New Information):** A list of recent updates, including financial statements and press releases.
- IRカレンダー (IR Calendar):** A section for upcoming IR events and dates.
- 株主・投資家の皆様へ (To Shareholders and Investors):** A section providing information for shareholders and investors.
- 経営方針 (Business Policy):** A section detailing the company's business strategy.
- 業績・財務 (Performance and Finance):** A section providing financial data and performance metrics.
- IR資料室 (IR Document Room):** A section for downloading various IR documents and reports.
- 株式情報 (Share Information):** A section providing information about the company's shares.

At the bottom of the page, there are several logos and a button labeled "IRメール配信のご登録" (Register for IR Email Distribution).

IRに関する最新情報について、
メールでお知らせします。
ぜひご登録ください。

<https://www.nissanchem.co.jp/mail/index.html>

セグメント		製品名	主用途
化学品	ファインケミカル	テピック	エポキシ樹脂: ソルダーレジストインク材料、LED封止材等、粉体塗料硬化剤
		メラミンシアヌレート	難燃剤
		環境化学品	プール、浄化槽用殺菌消毒剤
		ファインオキシコール	化粧品原料、潤滑油原料、電子材料用接着剤原料
	基礎化学品	メラミン(22年12月販売終了)	接着剤
		アドブルー®	ディーゼル車排ガス浄化用高品位尿素水
		高純度硫酸	半導体用洗浄剤
機能性材料	ディスプレイ	アンモニア、硫酸、硝酸、尿素	
		サンエバー	液晶配向材用ポリイミド
		(主要モード) VA	Vertical Alignment: テレビ
	半導体	IPS	In-Plane Switching: スマートフォン、タブレット、PC、モニター、車載
		ARC®(KrF、ArF)	半導体用反射防止コーティング材
		多層材料(OptiStack®)	半導体用多層プロセス材料(Si-HM、SOC)
	無機コロイド	EUV材料	EUVプロセス材料(下層膜、Si-HM)
		スノーテックス	コロイダルシリカ: 研磨剤(シリコンウェハー、化合物半導体、半導体CMP等)、特殊鋼板
		オルガノゾル・モノマーゾル	有機溶媒・モノマー分散シリカゾル: フィルム表面処理、電子機器、樹脂添加剤
		オイル&ガス材料	シェールオイル・ガス採掘効率向上材
農業化学品	除草剤	タルガ	大豆、なたね、てんさい
		パーミット	とうもろこし、さとうきび、稲
		ラウンドアップ	非選択性茎葉処理除草剤: 非農耕地、果樹園
		アルテア	稲
	殺虫剤	グレーシア	野菜、茶
	殺菌剤	ライメイ	ばれいしょ、野菜、ブドウ
		ダイセン(マンゼブ)	果樹、野菜
	動物医薬品	フルラナネル	ペット用外部寄生虫薬BRAVECTO®、鶏・牛・羊用EXZOLT®原薬
ヘルスケア		リバロ原薬	高コレステロール血症治療薬
		ファインテック	課題解決型受託事業および共同開発型事業

※ アドブルー®はドイツ自動車工業会(VDA)の登録商標 ※ ARC®およびOptiStack®はBrewer Science, Inc. の登録商標

※ BRAVECTO®およびEXZOLT®はMSD の登録商標

本資料に記載されている将来の当社事業に関する見通しは、資料作成時点で入手可能な情報に基づいて当社が判断したものであり、将来の当社業績を保証するものではありません。様々な不確実要素により、実際の業績は予測と大きく異なる結果になる可能性があります。

また、本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断で行われるようお願いいたします。

本決算説明資料に掲載されている全てのコンテンツは、日産化学株式会社が所有しています。
